Nagasaki Higashi
Global Report
International Department

ＧＳⅡ　第１０号

October 4, 2018

ベラルーシ共和国駐日大使東高訪問！

９月１８日（火）、ベラルーシ共和国駐日大使ルスラン・イエシン氏が東高を訪れ、国際科２年６組と３年生の平和班代表の２人と交流しました。

核に関するプレゼンテーション

ベラルーシは、ウクライナと国境を接しており、チェルノブイリと隣接しているため、**１９８６年の原発事故の際には放射能による被害を受けました。**そのため核問題には関心が強く、同じ体験を持つ福島と交流を続けています。今回は、同様に核の被害を受けた長崎県の生徒と交流したいとの事で訪問が決まりました。そこで、東高を代表して２年６組草野和花さんと宮崎菜々子さん、３年７組橋本彩華さんと溝口祥帆さんが英語で、日本の核兵器に関する立場や長崎での平和教育について発表しました。

平和に関する意見交換

その後、上記４名に２名が加わり、意見交換を行いました。その中で、ベラルーシでの平和教育や、ベラルーシの核に対する立場など、和やかな雰囲気の中で真剣な話し合いが行われました。生徒の純粋な質問に対して、大使からは真摯で愛情あふれる返答をいただき、大変有意義な時間を過ごすことができました。

生徒の感想

「ベラルーシでは夏休みに生徒一人一人が戦争に関する資料を作成したものを展示し、新年度最初の授業では平和学習に取り組んでいたり、**平和学習を重視している**ということがわかり親近感がわきました。」「大使が、『（先輩が作成した）平和の副教材をベラルーシでも利用するよう提案してみる』とおっしゃったとき、ＧＳⅡの**研究がまた一歩前進した**のを感じました。」